

令和4年度第3回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日時: 令和5年(2023年)1月12日(木)

14:00~15:30

場所: 市役所3階302会議室

【出席委員】 秋岡委員、石川委員、崎山委員、芳賀委員、蛭田委員、藤井委員
山本委員、吉田彩子委員、吉田秀樹委員

【欠席委員】 若江委員

【事務局】 文化スポーツ観光部 高野 副部長
文化振興課 森課長、新野主査、遠藤主任

【傍聴者】 なし

<配布資料>

資料1 文化振興基本計画(答申案)

資料2 文化振興基本計画進行管理結果報告書

<議事内容>

開会

会議の成立(委員10名中、9名出席のため、会議は成立)

議事

次第1 文化振興基本計画の改訂について(答申)

委員 本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。早速案件に入りたいと思います。委員の皆さま、ご協力お願いいたします。

それでは、文化振興基本計画の改訂について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

具体的な修正箇所を説明する前に報告が1点ございます。昨年11月25日から12月15日まで行われた当該計画の改訂素案について、パブリック・コメント手続きを行いました結果、意見等はございませんでした。1月11日付け公表をいたしました。よろしく願いいたします。

それでは、答申案についてです。

前々回、前回と審議会での議論と、さらに委員の皆様方に別途、改訂素案に加筆修正等の最終依頼をさせていただきました結果を受けて、本日の計画改訂案を事前送付させていただいております。

その後、追加提案という形で机に1枚資料を作成していますので、ご説明いたします。

～修正箇所の説明～

委員 ただいま、事務局から説明がありましたが、委員の皆様方から質問や意見などがありましたら、ご発言をお願いいたします。

委員 20 ページの一番下の段落のところの説明で、ブラフ積みとあったのですが、そもそもブラフ積みが何かわからないのですが、教えていただけますか。

委員 レンガで言いますと、フランス積みのような積み方をしている石垣、擁壁です。これは横浜の山手にありまして、昭和50年頃に横浜市職員のほうがブラフ積みという名前を付けました。ブラフというのは、崖という意味です。崖の斜面に住宅地などを作るために平地を作らなければいけない時の土留の擁壁です。切り通しというと横浜に多いと思われていますが、横浜以上に横須賀にもたくさんあります。明治、大正、昭和で言いますと、明治の前半、千代ヶ崎砲台にブラフ積みがあります。猿島にもブラフ積みがあります。そういった旧軍施設にもありますし、それ以外でも市内に100か所以上あります。皆さんが気づいていないかもしれませんが、横須賀の景観の中では非常に特徴のあるものになっています。例えば、民地ですと浦賀道というものがあります。汐入から横須賀中央の方に歩くと随所に擁壁がありますので、ぜひ見ていただければと思います。

事務局 もしよろしければ、表現に関して、追加の文言がありましたら、ご教示いただければと思います。

委員 擁壁と書いている部分と、猿島のところのように石垣と書いて

いるところがありますので、どちらかに統一していただければと思います。

委員 24 ページですが、障害者を対象とした音楽教室・創作教室の開催数と参加者数とありますが、参加者数のみの記載ですね。

事務局 こちらは参加者数しか結果的に追いかけることがわかりましたので、開催数は削除しないといけません。ご指摘ありがとうございます。

委員 先ほどのブラフ積みですが、写真があるといいですね。

事務局 20 ページに余白がありますので、追加で写真を入れられればと思います。

委員 答申案について、字句の修正はまだできるということでしょうか。

事務局 「てにをは」の修正をさせていただき、出来上がりと思っています。

委員 気になったところはいくつかありますので、申し上げさせていただきます。

4 ページの 2 行目、「文化芸術の振興を推進」とありますが、「振興」という言葉にはそもそも推進的な意味が含まれていますので、整理をした方がいいと思います。例えば、「振興を図る」という感じにしますと重複がなくなると思います。

8 ページの 7 行目、「働き掛け」は、「働きかけ」がよいと思います。

9 ページ、③の下から 3 行目、「ICT」についてはカッコを付けるのがいいのではないかと思います。辞書で引くと、情報通信技術ということだと思います。

事務局 注釈を入れさせていただきます。

委員 10 ページの網掛けの部分ですが、「史実の普及」とありますが、

普通であれば、「歴史」ですんなりいくような感じがしますが、何か議論があつて、「史実」になったのでしょうか。単に「歴史」ではよろしくないのでしょうか。

事務局 こちらは委員にお伺いしてよろしいでしょうか。

委員 「歴史」の方がいいと思います。

事務局 ありがとうございます。

委員 11 ページの「取り組みの認知度」のグラフですが、「知らない」のグラフの塗られ方です。棒グラフのバーの方は左上から右下の斜線、例示の方は右上から左下の斜線になっています。また、白に点々があるようなバーになっていますが、こちらもバーと同じものだとわかっていいと思います。
12 ページにグラフもありますが、とても小さいのでだいぶわかりにくいと思いますので、直るようであれば直していただくとよいと思います。
14 ページに「文化による人と人とのつながりの醸成」という部分の「醸成」という言葉があります。本来、「醸成」は雰囲気や空気といった状況を作るという意味でしか使わない言葉ですので、「つながりを醸成」ということは日本語としてはあり得ない表現だと思います。例えば、実現とか構築、創造といった言葉、実現くらいがいいのかなと思います。

事務局 ありがとうございます。

委員 その他にはいかがでしょうか。
ご意見がないようでしたら、今いただいたご意見についての修正は事務局に一任ということでよろしいでしょうか。
それでは、ご承認いただいたということで、事務局に一任とさせていただきます。よろしく願いいたします。
次に、答申へと移ります。事務局からご説明をお願いします。

事務局 答申につきましては、部長の倉林が来る予定でしたが公務で急遽出席ができなくなりました。副部長の高野が来ておりますの

で、高野を代理とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

委員

本審議会は、諮問を受け、横須賀市が提示した改訂素案を中心に専門的な見地や市民としての視点で、積極的な討議を重ね、慎重に審議してきました。

この計画の礎となる文化振興条例の前文には、「文化は、生活に心の豊かさや潤いをもたらすとともに、市民相互の理解と信頼を深め、活力ある地域社会の実現にかけがえのないものです。」と記されています。

この前文の内容を再認識したうえで、今回の改訂において、その計画が目指す基本的な方向性は、これまでの計画を継承されることを妥当とし、その上で、新たに音楽やエンターテインメントといった大きな要素が盛り込まれた改訂素案について、了承しました。

計画の実施にあたっては、「心豊かで潤いと活力のある横須賀」の実現に向けて、また、横須賀ビジョン2030の観光・文化の分野別計画として、文化の側面からの実現に向け、横須賀市の文化の振興に十分生かされるよう配慮するとともに、的確な進行管理を行い、「変化を力に進むまち。」に向けて、効果的かつ継続的な文化行政に努められることを切に要望します。

事務局

本答申につきまして、委員長をはじめ、各委員の皆さまのご尽力を賜りまして、誠にありがとうございました。

今日は皆さまのご審議を拝見いたしました。活発に様々なご意見を賜り、答申案としてお受けすることができました。本当にありがとうございます。

この答申に基づきまして、今年度中に計画が策定されます。来年度以降、この基本計画を基に本市の文化行政を進めてまいりたいと思いますので、引き続き、委員の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう切に願っております。今後ともご協力をお願いいたします。本日はありがとうございました。

事務局

委員の皆さま、ありがとうございました。大変恐縮ですが、高野はここで退席させていただきます。

委員 続いて、次第2に移ります。文化振興基本計画の進捗状況について、事務局からお願いします。

事務局 文化振興基本計画の進捗状況について、ご説明します。
説明の前に1点、お詫びいたします。1ページ目の進行管理表による進捗状況の確認という項目です。
令和3年度の評価結果でS、A、B、C、評価対象外のそれぞれの事業数が書いている項目があります。こちらの事業数ですが、再掲している事業もカウントしておりました。こちらの数字について、改めて確認し、修正いたします。大変失礼いたしました。こちらの進行管理表は、審議中の振興計画についてはでなく、現在進行形の現在の基本計画に対する進行管理となりますので、ご承知おきください。
今回、こちらから委員の皆さまにご議論いただきたい部分が2点ありまして、ご提示させていただきます。
1つが評価結果でSと記載している事業について、もう1つがBと記載しているものについてです。
Sと評価している事業は、48ページ、50ページに記載の「浦賀奉行所開設300周年を契機とした取り組み」についてです。
こちらの取り組みは、予定していた記念イベントは新型コロナウイルスの影響で中止しましたが、予定とは違う取り組みとして、浦賀の魅力を発信する動画を制作したという点を「当初の予定を上回って実施した」という解釈をして、Sとしております。
一方で、その他の取り組みにおいても、コロナの状況に応じて、回数を減らしながら実施するものや内容を変更して、できる範囲で行っている取り組みもAとしているものもあります。
そういった取り組みもある中で、浦賀奉行所の取り組みがSがいいのか、Aがいいのか難しいですが、Sと記載しています。
もう1つのBとしている事業は、22ページの「文化振興審議会の開催」です。
令和3年度は文化振興基本計画の改訂を予定していたため、4回の開催を予定していました。ただ、改訂については、1年先送りすることになり、また、コロナの感染状況等を踏まえ、令和3年度は書面会議1回の開催となりました。
その結果を踏まえ、1ページの評価基準、S、A、B、C、対象外でどう捉えるかというところで、Aの当初予定どおり実施し

たという解釈にはためらいがありましたので、Bとしているところでは、委員の皆さまにご協力いただきながら、B評価とすることにもためらいがあり、悩んでいるところです。以上の2点、Sにした事業、Bにした事業につきまして、ご意見をいただければと思います。

また、令和2年度からコロナの影響が大きく、コロナの影響で中止、あるいは内容を変更せざるを得ないという事業が多いもので、それに対してどう評価するか、評価できないという言い方がいいのか、そのあたりも難しいと思いながら作成しています。掲載している事業も幅広く、内容も多岐に渡るので、どこまで細かく書くのかに苦慮しながら、ご提示させていただいています。

委員 では、SとBの評価の部分について、まずはご意見をいただき、その後で全体のご意見をいただくということをお願いしたいと思います。

委員 「対象外」という言葉がいつ頃から使われているのかわかりませんが、対象外というより、評価できない、評価不能という方が実態により近いのではないかと思います。審議会に関しても評価不能という方に近いのではないかという感じがします。対象外と言うと、その指し示しているものが少しわかりにくい言葉のように感じますので、評価不能の方がはっきりわかると思います。

事務局 昨年、令和2年度の進行管理表を作る中で、コロナの影響で中止になっているものに対して、令和元年度までのS、A、B、Cの基準では評価できない、評価のしようがないというところから、評価対象外「-」というものを昨年から追加させていただいています。委員のご意見にありました評価不能、評価できないという表現も1つかなと思います。

委員 2つあります。そもそも、このSとかAという基準がよくわかりません。例えば、Sの評価は「予定を上回って実施した」となっていますが、これは回数を多く行えばSになるのか、あるいは行事の人数が何人参加したというように人がたくさん来たらSになるのか、そのあたりがよくわからないので、教えていただきたい

いです。できれば、Aばかりではなくて、Sがたくさんあるとい
いのかなと思ったところが1つです。

もう1つは、文化振興審議会の部分ですが、そもそも進行管理表
に記載する必要があるものなのか、なくてもいいのではないかと
思いますが、いかがでしょうか。

事務局

取り組み内容が多岐に渡り、数字や回数で一概に評価できない
ところがあるため、評価基準についての明確な基準はありません。
そのため、評価結果の表記としても、「概ね当初予定どおり
実施した」、「当初予定を上回って実施した」というように広く解
釈できる表現となっています。

市役所の事業ですので、コロナの状況がなければ、基本的には予
算がついている行事や講座を実施することになりますので、概
ね当初予定どおり実施したというものが多くなるのが通常です。
そういった事情もありますので、明確な基準が作れない、作りづ
らいというところがあります。

委員

例えば、こういう行事を1回行ったけれど、予想に反して非常に
好評だった、人がたくさん来たといった場合でも基本的にはA
になってしまうということでしょうか。

市の職員の方でしたら、非常に良かったと思って、Sとつけたく
なるようなものもあるのではないかと印象を持ちますが、
どうでしょうか。

事務局

数字で目に見える形で判断できるものがあれば、Sという評価
もあると思います。この点に関しては、現在作成中の基本計画
でも進行管理を行っていきますので、その際の参考とさせてい
ただきます。

もう1ついただいていた文化振興審議会をこの進行管理表に記
載する必要があるかという点ですが、前回の基本計画を改訂し
た時の進行管理表を継続して追ってきていますので、今回に関
しては原稿を追っていく関係上、項目としては入れさせていた
だきたいと思います。

委員

それでしたら、委員が言われたように評価対象外でもいいので
はないかと思います。

委員

この文化振興審議会に関しては、評価をした方がいいと思います。審議会の予算がついているわけですし、予算に基づき実施したという意味でも評価する責任があると思います。

また、次年度の予算を組むためにも、宣言したものをきちんとやり続ける、もちろん、お金のことでなく、内容のある検討をしていることをきちんと記録に残していく必要があると思います。計画したとおり、Aとしてできたというのであれば、それはきちんと残しておいた方がいいと思います。

気になったこととして、文化振興審議会に関しては、新型コロナウイルスの影響で回数が減ったというような記載がありませんでしたので、このままではサボったようにも見えてしまうと思いますので、事情をきちんと書いた上で本来の回数は減ったが、書面で開催していることを記載してもいいと思います。

もう1つのSの件ですが、悩ましいと思いました。やはり、Sと言うと、優・良ではないですが、成績表と連動して発想してしまいますので、想定したものをきちんと行った上で、さらにもっと上まで行ったという感覚があります。やらないはずだったものを行ったら、SになったというSの付け方は意見が分かれるところだと思います。

例えばですが、長い目で見た時にやるべきだったものが一時中断していたが、然るべきところに復活したという場合、単年度で見るとはならず、複数の年度で見るとAに近いので、そのあたりをきちんと説明した上でAというのはいくらあるのかなと思います。

また、52 ページの浦賀レンガドックの取り組みですが、例年開催していたものの回数が2回に減っているようですが、評価がAになっています。これはどうしてなのか疑問に思いました。

事務局

審議会の部分に関しては、委員からありましたとおり、予算を組んで、令和3年度は予定より少ないですが、開催していますので、ご意見を参考に、改めて、事務局で検討させていただきます。

浦賀奉行所300周年の取り組みの方ですが、こちらも改めて、事務局で協議し、評価を出させていたきたいと思います。

浦賀レンガドック活用イベントのA評価の件ですが、この取り組みというより、全体の話にはなりますが、取り組みの回数や規

模を縮小しているが実施しているものはAの評価をしています。この進行管理表を作成する経過の話になりますが、実績の部分に関しては各課から回答をいただいているので、回数のみで提出している部署もあれば、文章で回答している部署もあります。そのため、各取り組みの表記に違いが出ています。

例えば、40 ページの開国史研究会の部分ですが、予定は文章で表記していて、実績は回数で記載しています。これだけを見るとわかりませんが、実際はコロナの影響もあり、当初2回予定していた講演会が1回になっています。

そういった事例は他にもありますが、S、A、B、C、評価対象外といういずれかの評価をつける形なので、コロナの状況を踏まえて、回数の減少や規模を縮小しながら行っているものに関しては、レンガドックのものを含め、Aと解釈して、Aの評価としているものが多くなっています。

委員 事務局からご提示があった部分について、ほかにご意見ありませんでしょうか。

委員 対象外を不能にするというご意見の件ですが、私は不能より対象外の方がいいと思いました。不能と言いますと、とても低い評価のように感じられるので、対象外のままがいいのではないかと思います。

A、Bという評価ですが、例えば、BやCという評価を付けると今後、取り組みに関する予算に影響があるものなのではないでしょうか。あるいは、評価をAとすれば、将来的にも継続して、事業を保っていけるのかどうか、どのような視点からの評価になるのかが気になりました。

文化振興審議会はBとなっていますが、不可抗力によって減ってしまったものと思いますので、内容が1回であろうとも1年間の目標を達したのであれば、十分、Aでいいのではないかと思います。

委員 85 ページの生涯学習センターによる生涯相談件数、これが23件になっています。実績値はもっと多いのではないかと思います。生涯学習センター側の回答の出し方が不足しているように感じます。窓口の相談も電話もそれぞれ1回です。レファレンスサー

ビスですから、実際にはもっと多くあると思います。
S A B Cの評価ですが、これはすごくつけにくいですよ。幅がありすぎますよね。先ほども話がありましたが、実施しなかった場合、全てCになってしまう。コロナで中止だったら実施しなかったということで、Cですよ。
ところが、実際に蓋を開けてみるとそうではない解釈もあるということで、評価対象外が20もあります。評価できなかったということはあり得ないと思います。何らかの形で評価できていはずだと思えます。
そうであれば、すべてAにしておいて、何か問題があったら、Aにカッコを付けるくらいの資料を付けるということではないかと思えます。
第三者が見た場合、A評価だと、これはいいものだという印象を与えますので、しっかりとご説明を伺えば、納得はしますが、ちょっと怖い部分もありますね。

委員 いろいろなご意見をいただいておりますが、S A B Cでいいのかどうかを含め、基準についての見直しも、引き続き、検討いただけるということでしょうか。

事務局 今年度に関しては、この基準で行かせていただきたいと思えます。現在作成中の進行管理に関しては、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、改めて議論していく必要があると感じています。

委員 わかりました。事務局からのご質問について、いろいろなご意見をいただきました。他に、全体のことでご意見がありましたらいかがでしょうか。

事務局 委員からご質問のあった件ですが、評価と予算の兼ね合いですが、関係はありません。この評価が次年度以降の予算査定に反映されるということはありません。

委員 この報告書は何年何月発行ということになるのでしょうか。

事務局 はい。令和5年3月発行ということになる予定です。

委員 また、最近、千代ヶ崎砲台跡が一般公開されることになりましたが、その話がここには全く出てきません。市として、重要なイベントだったように思いますので、どこかに記載があった方がいいのではと思いました。

事務局 令和3年度以降の新規事業についてということかと思うのですが、千代ヶ崎砲台跡を含め、新規に掲載すべき案件があるかを改めて確認し、必要があるものに関しては追加するようにしたいと思います。

委員 報告書が完成したらWEBか何かで公開されるのでしょうか。

事務局 はい。WEBで公開する形になります。

委員 今日、参加している中で、パブコメが全くないということがすごく疑問で、心配です。どう広報し、パブコメを集めているのか、集まらないのであれば、集める努力をしていただいた方がよろしいのではないかと思います。
結局、一生懸命考えても、市民の方からの声がないということは非常に残念ですし、来年度以降、私たちを含め、工夫したいと思います。

事務局 パブコメの流れをお話いたします。
まず、パブコメを行う予告を市議会議員と報道機関に情報を伝えます。また、ホームページでこの時期に行うという予告をします。
その後、実際にパブコメを行う時期になりましたら、予告同様に市議会議員、報道機関、ホームページで情報を発信します。
今回、資料は各行政センター、横須賀美術館、まなびかん、横須賀芸術劇場、文化会館、はまゆう会館等に配架しました。できる限り、ご覧いただくような努力はしております。
文化振興審議会についても、開催のお知らせはしていますが、今日も傍聴者はいませんでしたし、今年度、3回とも0人でした。なかなか興味をお持ちいただけないと言うところでしょうか。興味がない人の目にはなかなか止まらないということはどの分

野でも同じ課題を抱えると思いますし、今後も課題になるもの
と思います。

委員 他の自治体の状況が気になったもので、3つくらい聞いてみま
した。きっと集まらないのではと思っていたのですが、意外と集
まると伺いました。高齢者の方が紙媒体で書かれるものが一番
集まるとのことでした。横須賀市も高齢化をしていますし、何か
いい策があったらと思います。駅や市の出先機関等に市長への
手紙みたいなものと一緒しておくとか集まるという話も聞きま
した。

委員 ご意見ありがとうございます。

委員 文化財の指定という部分があります。令和3年度実績にある天
神社の天神像ですが、ネットで探してみても見つかりません。天
神社のホームページを見ても、そのことがどこにも書いていな
いので、残念です。公開しないまでも、こんなものがあるとい
うものが出てくるはずではないかなと思います。
これは、今年度の問題ではないですが、以前、2015年、平成27
年に指定された馬堀自然教育園に昨年行ってきました。雨の影
響もあるのか、やや危険なところが見受けられました。雨上がり
でぬかるんで、崖に手すりがない。管理人さんは一人なのでくま
なく見るわけにもいかないでしょうから、例えば、気づいた人が
ネットで危険な場所をお知らせするとか発信できるものがあれ
ばいいなと思いました。

委員 その他にご意見はありますでしょうか。
ないようでしたら、次第3、その他に移ります。事務局から願
いします。

事務局 事務局から今後のスケジュールについて、説明いたします。
2月10日に庁内の関係部局の部長が出席する文化行政推進会議
にて改訂案の説明と報告を行い、3月の市議会にて一般報告を
しまして、4月から改訂した計画がスタートするというスケジ
ュールとなります。

委員 予定より早く審議が進みましたので、皆さんにご検討いただきたいということをお持ちの委員の方がいらっしゃいましたら、ご発言いただければと思います。

委員 かつて、横須賀の文学碑という碑を12基、建立されました。それが今も管理されているものかどうかお伺いできればと思います。せっかく建てた文学碑ですし、草が生い茂っていたり、あまり活用されていなかったりするようであれば、今後また考えていただきたいと思います。

市民文化資産は管理費を配布いただいているとのことですが、文学碑の方は放置されているのではないかと思いましたが、いかがでしょうか。

事務局 文学碑は市内に10数か所あり、例えば、吉倉公園に芥川龍之介の文学碑、ヴェルニー公園に正岡子規の句碑があります。公園内にあるものであれば、所管としては公園管理課が所管しています。積極的に整備をしているという言い方は難しいかもしれませんが、所管課が管理をしているとご理解いただければと思います。

タイムリーな話題としましては、広報よこすかの2月号で文学碑に関する記事が掲載される予定です。

委員 野田宇太郎という近代文学の顕彰活動をしていた方の研究をしています。文学碑も初めはいいのだけど、段々と周りに草が生い茂っていくというようなことはどこも同じ悩みを抱えています。一方で、定期的いきちんと更新されていく地域もあります。野田宇太郎さんは、ここはきちんとやっている、ここはひどいということを見分けながら、文学散歩を行いました。そういう意味で、その都市の文化力が問われていますし、文学碑の字も読めなくなるようですと、横須賀市の名前がすたりますので、どこの部署かわかりませんが継続的に支えていくということ、必要に応じて更新していくことが大事だと思います。

委員 昨年、横須賀美術館で運慶展をやっていて、横須賀市内にこんなすごいものがあつたのだと、皆さん、評価されています。美術館も本当に予算もなく大変だと思います。

図書館や博物館の資料が段ボールに入ったまま、整理が大変で整理しきれないという話を聞きました。

そのあたりのことで、もう一度、横須賀市内の文化財再発見と言いますか、そういったことをやってみてもいいのではないかと思います。意外と市民が知らないものもいろいろありますし、ジャンルもいろいろあるので、どこまでやるかわかりませんが、見方を変えて、これは大事だということを市民に知らせる取り組みがあってもいいと思います。

委員

振興計画、管理もそうですが、広報紙に対する評価が何もありません。このところ、「広報よこすか」がどうももうひとつだなという気がしています。

委員からありました文学碑と市民文化資産の問題ですが、指定は文化振興審議会で行っているわけですが、制定すればいいというものではなく、それをどう市民の人たちに知らせるか。もう少し横須賀の中にいろいろなものがあるということを出していくのも1つだろうと思いますし、これだけたくさん事業があるので全部載せきれないというのは確かにあると思いますが、広報よこすかに関しては、そういうものではなく、違うところに紙面の内容がいつているという気がしています。その広報紙に対する評価が何もこの中には入っていないというのは気になります。それこそ、市民の声の欄がもう少し必要になってきているのではないかと思います。いろいろな取り組みをやるのに、タウンニュースを見れば、広報紙がいらなくなってくるような状況になりつつあることは、文化振興審議会をもそうですが、きちっとやっていかないといけないだろうなと思います。この次の1年間の任期では、そのあたりの問題をやっていければと思っています。

委員

評価の件については、やはりすごくわかりづらいと思いました。市民の方にも本当にわかりづらいと思います。今までのものと、やはり回数がベースになっているとは思いますが、それとは別の評価、例えば、参加された方やお客さんとかの満足度みたいなものの評価が別枠で作ればいいのではないかと思います。

次年度の話になると思いますが、市民の皆さんの声がどれだけ

フィードバックされるかということだと思しますので、市民の声を吸い上げるうまいシステムみたいなものがやはり大事になってくると思います。

今、インターネットでもクリックすれば、すぐに評価ができる時代になっていますし、そういった簡単なものでもいいと思います。何かイベントに参加したら、このイベント面白かった、つまらなかったということでもいいと思います。評価というものがありますと、回数でやったという実績の他の何か評価するシステムが必要になってくると思いました。

最近、自分が若者とあまり話す機会がなくなってきたり、若者が何をやりたいのかということがわからなくなってきたりのように感じています。自分が若い時にやりたかったことと、今の若い人たちがやりたいことってというのは、文化の何かの催しの中でも違ってくると思います。昔で言えば、青年の主張みたいなものとかありましたが、そこは何かディスカッションする場があってもいいのではと思います。今年の成人の日の集いも、若者たち主導ではなく、市が主催ということで、彼らがやりたいことをやっているわけではないということでした。それは実行委員会に人が集まらなかったとタウンニュースで読みました。

そういった若者の声が聞ける場所がこれから必要になってくるのかなと思います。イベント自体、アップデートしていかないと、変化させて、時代についていくものではないと10年後、20年後に飽きられてしまうことになると思います。

委員

貴重なご意見ありがとうございました。

では、これを持ちまして、審議会を閉会いたします。委員の皆さま、本日はご協力いただきありがとうございました。